

アラハダカ（魚類，ハダカイワシ科）の和歌山県白浜町沿岸における漂着記録

Records of *Myctophum asperum* Richardson (Pisces, Myctophidae) casted ashore on coasts of Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信 Kubota, Shin

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459）

はじめに

全世界の外洋の水深 200 m 以深に生息するアラハダカ *Myctophum asperum* Richardson (魚類，ハダカイワシ科) は、我が国では北海道から土佐湾にかけての太平洋の沖合に分布する（中坊・甲斐，2013）。アラハダカは和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ 4～5 月に 4 回、11 月に 1 回漂着した（久保田ほか，2011, 2012, 2013）が、2013 年と 2014 年にも、同じ区域で継続調査を実施したので、その結果をこれまでの記録とともに報告する。

方法

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で、2013 年と 2014 年に、ほぼ毎日、漂着物調査を実施した。この際、アラハダカのこれまでの記録が 5 月前後に集中していた事に留意し（表 1 参照）、特に 2014 年 4 月下旬から 6 月初旬までの期間中は、早朝と夕方の 2 回、ほぼ毎日、“北浜”を往復して目視調査した。残りの期間中は、毎日少なくとも 1 回の往復調査とした。

結果と考察

今回の 2 年間の調査では、アラハダカの漂着が全く見られなかった。そのため、前回の 2012 年の事例の様に（久保田ほか，2013）、1 年に 2 度、半年間隔で本種の漂着があるのか、などは確認できなかった。

これまでの記録としては、2010 年以降、4 月下旬から 5 月初旬の限定された時期にかけて“北浜”調査区域にアラハダカが 3 回漂着し、同じ白浜町の別の場所にも同時期に 1 度漂着している（表 1: 久保田ほか，2011, 2012, 2013）。この他、2012 年の 11 月初旬に当該調査区域に、本種が漂着した（図 1: 久保田ほか，2013）。これら全ての標本は京都大学総合博物館に番号を付されて保管されている（表 1）。

以上の全ての 5 事例では、それぞれ 1 個体のみの漂着で、今回の調査結果からも、本種の漂着例は当該区域では稀少である。

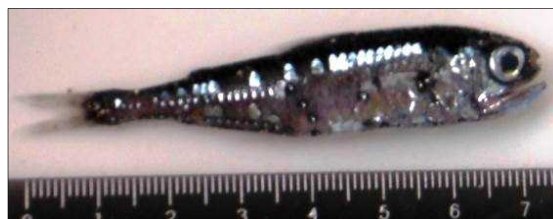


図 1. 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ 2012 年 11 月 5 日に漂着したアラハダカ

表 1. 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”と白浜町市原海岸へ漂着したアラハダカの記録（* FAKU = 京都大学総合博物館保管標本番号）

漂着場所・年 月日	標準体長 (mm)	FAKU*	出典
(1) 実験所“北浜”			
2010 年 5 月 4 日	72.0	98927	久保田ほか， 2011
2011 年 4 月 27 日	71.9	98296	久保田ほか， 2011
2012 年 5 月 11 日	74.7	99729	久保田ほか， 2012
2012 年 11 月 5 日	57.8	200181	久保田ほか， 2013
(2) 市原海岸			
1996 年 5 月 4 日	77.4	99730	久保田ほか， 2012

謝辞

標本の保管と本原稿へのコメントを頂いた京都大学総合博物館の中坊徹次先生に深謝いたします。

引用文献

- 久保田 信・武藤望生・東海林 明・中坊徹次. 2011. アラハダカ *Myctophum asperum* (ハダカイワシ科) の和歌山県白浜町京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”への漂着. 南紀生物, 53(2): 123.
- 久保田 信・新稲一仁・東海林 明・武藤望生・中坊徹次. 2012. アラハダカ *Myctophum asperum* (ハダカイワシ科) が和歌山県白浜町京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”と市原海岸へ漂着. 瀬戸臨海実験所年報, 25: 40–41.

久保田 信・東海林 明・中坊徹次. 2013. アラハダカ（ハダカイワシ科）が和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で11月に漂着. 南紀生物, 55(1): 43.

中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. ハダカイワシ科. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, pp. 446–473, 1859–1864. 東海大学出版会, 東京.